

大空 (生徒・保護者向け) 5号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和2年5月8日(金)

Be strong and be kind (5月8日放送による全校集会の話)

□本日の概要

- 県立学校の臨時休業は5月24日まで延長されたが、登校日における学習活動を実施し、段階的に学校を再開していく。
- 高校総体の中止が発表された。大変残念であるが、逆境でこそ真価が問われる。今、皆さんが打ち込んできた部活動の真価が問われている。
- ニュージーランドのアーダーン首相の言葉、"Be strong and be kind" (強くあれ、そして優しくあれ) という言葉を胸に、試練を乗り越えてほしい。

□学校再開に向けて

今回、政府の緊急事態宣言が5月31日まで延長になりました。しかし今回は特定警戒都道府県(13都道府県)で引き続き接触減を求めながら、それ以外の34県では様々な自粛を緩和するものであり、解除については前倒しされる可能性もあります。

日本の緊急事態宣言は、諸外国に見られるロックダウン(都市封鎖)のような厳しい措置ではありませんでした。しかし、国民一丸となった取り組みにより、新たな感染者数は減少に転じています。もちろん、気を緩めて再度感染が拡大すれば、医療体制に大きな負荷がかかりますので、引き続き感染防止に向けた取り組みを継続する必要があります。

また、宮崎県では4月11日以降の新たな発生はありません。油断はできませんが、感染防止を継続する「新たな生活様式」を身につけた上で、日常を取り戻していかなければなりません。

政府の専門家会議におきましても、「学校における感染リスクをゼロにするという前提に立つ限り、学校に子どもたちが通うことは困難であり、このような状態が長期間続けば、子供の学びの保障や心身の健康などに関して深刻な問題が生じることになる。」とされており、「社会全体が、長期間にわたりこの新たなウイルスとともに生きていかなければならないという認識に立ち、その上で、子供の健やかな学びを保障するということの両立を図るため、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減しつつ段階的に実施可能な教育活動を再開し、その評価をしながら再開に向けての取り組みを進めていくという考えが重要である。」とされています。

政府の方針を受け、宮崎県の対応は「全ての県立学校の臨時休業を5月24日(日)まで延長する。なお、登校日の設定および登校日における学習活動は可能とし、25日の完全再開に向けて、段階的に取り組みを進める。」となりました。それを受け、本校ではまずは高校3年生を優先する形で登校日を設定しました。5月11日からの週は、高校3年生は月水金、2年生は火曜日、1年生は木曜日を登校日とし、その曜日の時間割の学習活動を実施します。附属中学校につきましては、6年間の一貫教育を実施するため、仲間作りと初期指導教育を充実させる必要があるという観点から、中学1年生を月水金、中学2年生を火曜日、中学3年生を木曜日とします。(2週目は曜日が変わります。詳細は別文書で案内します。)

25日には学校を完全再開させる予定です。完全再開には、私達の行動変容の徹底が必要です。検温、三密回避、手洗いやマスク着用等を徹底してください。そうすれば、私達の学びを守ることができます。

□逆境でこそ真価が問われる

昨日、宮崎県の高校総体の中止が発表されました。高校総体を目標に日々の練習を重ねてきた選手の皆さんや、指導に当たられた顧問や指導者、そして、皆さんの活動を様々な形で支えてきた保護者の方々のお気持ちを考えると、本当に苦しい思いです。

しかし、これは何よりも皆さんの安全を重視した判断です。つい先日まで、自由に思い切ってやれていたことが急にできなくなるということは本当に辛いことです。何故、自分たちがこんな目に遭うのか、理不尽な思いの人もいるでしょう。しかし、私たちはこの辛さを乗り越えなければなりません。

苦しい思いをしているのは皆さんだけではありません。4月28日に放送されたNHKのプロフェッショナルの中で、救急医の今明秀(こんあきひで)さんは、こう語っていました。

「今、まさにウイルスと戦っている患者さんがいる。今、自身の感染の危険を顧みず、患者さんの命をつないでいる医師や看護師が現場にいます。負けないでください。一人で戦っているわけではありません。全国民でウイルスと戦い、それに勝利する。それを歴史に刻みたい。あの頃、日本人はウイルスと戦って負けなかった。そういう伝説を作りたい。」と語っていました。感染者は減少傾向ではありますが、それを支えている医療従事者は、懸命に頑張っています。部活動が中止になった皆さんも辛い状態ではありますが、今のこの状態でさえ、多くの人々の献身的な努力でやっと支えられているのです。医療従事者の方々と一緒に頑張って、私達もウイルスと戦っていかなければなりません。

私は始業式で、「試練が人間力を高める」という話をしました。この番組では、「逆境でこそ真価が問われる」と表現されていました。思いは同じだと思います。逆境である今、皆さんが打ち込んできた部活動の真価が問われています。

皆さんは、高校総体を目標として努力してきたと思いますが、部活動の目標は大会参加だけではありません。部活動を通じ、私達は協力することの意義や努力の尊さ、困難を乗り越える力など、様々な力を培ってきました。今までの自分たちが取り組んできたこと、身につけてきた力に誇りを持ち、この試練を乗り越えて欲しいと思います。

□Be strong and be kind

新型コロナウイルスへの対応で、今、ニュージーランドのアーダーン首相の対応が注目を集めています。

アーダーン首相は39歳という若さでニュージーランドの首相を務めています。2018年には女兒を出産し、6週間の産休をとったことでも注目されましたが、今回の新型コロナウイルスへの対応でも、いち早く非常事態宣言に踏み切りました。ニュージーランドは人口は500万人であり、一億人以上の人口を抱える日本とは状況は異なりますが、リーダーシップと同時に官邸からもF Bなどで直接国民に語りかける姿は共感を呼んでいます。

アーダーン首相のスピーチは、いつも”Be strong and be kind”(強くあってください、そして優しくあってください)という言葉で締めくくられています。この言葉を皆さんに贈ります。強さと、他者に対する優しさを持って、この試練を乗り越えて行きましょう。

”Be strong and be kind”